

はじめに

近年、わが国では家庭や社会構造の変化によって子育て支援機能が十分に発揮されていません。このような状況を補うために、最近では子育てに関する情報がITなどで盛んに発信されるようになりましたが、多種多様な情報が無制限に提供される傾向があり、かえって親の育児不安や育児困難感を増大させていることが指摘されています。

このような状況を考えると、子どもの健康と発育の評価を目的に行われている乳幼児健診は、親の育児不安や育児困難感を軽くする安心子育てサポートの重要な機会として、育児支援を意識しながら実施されるべきではないでしょうか。そういった観点で既存の乳幼児健診ガイドや保健の手引きを見ると、乳幼児の発育評価については標準値的な視点でまとめられているものが多く、正常の評価には幅があるなど、安心子育てサポートを意図してまとめられているものはほとんど見られません。

子どもは各自の特性をもって、成長量や発達度に多様性を示しながら成長します。したがって、乳幼児の健診や保健、保育、教育に関わる職種の人々は親にこのような子どもの発育の特徴を伝え、その変化は多様で幅が広いことを知ってもらうように心掛けることが大切です。また、食事や間食、入浴、歯みがきなどは健康面の大切さだけでなく、親子のふれあいや団らんの機会にもなるなど、子育ての楽しみとして伝えてもらう必要もあります。

本書は乳幼児の健診や保健、保育、教育の現場で親子に関わるチャイルドヘルスワーカーに参考となる子育て支援の手引きとして、特に歯と口に関連する内容を取上げてまとめたものです。第1章では育児支援に役立つ情報として、乳幼児の成長・発達の評価や、栄養、歯・口腔の発育と食べる機能の発達、食の発達と心の発達について総論的にまとめました。第2章では育児支援に役立つQ&A：歯・口・食編として約100項目について取り上げました。編集は日本小児保健協会日本小児連絡協議会合同委員会「小児科と小児歯科の保健検討委員会」が担当しました。

子育てをめぐる状況は時代とともに大きく変化しています。乳幼児健診での歯と口、食の問題で本書が育児不安や育児困難の解消、安心子育て支援に役立つことを願ってやみません。